

暑

い夏を高校生たちと一緒に過ごしています。高校生たちの体温は高く、より暑くなっている気がします。新作『わたしの星』の稽古、後半戦です。

井の頭公園の中にある稽古場に通うのも、もう何回目でしょうか。この稽古場で初めてつくった作品は『わが星』でした。何度も通ったこの稽古場も、8月中に取り壊されるようです。井の頭公園の木々を抜けながら稽古場に向つのが好きでした。

『わたしの星』は、壊れゆく地球に取り残された高校生たちの物語です。火星への移住が進む中、それぞれの理由で地球に残った高校生たち。夏休みの中、学校の音楽室で文化祭の準備をする彼らの1日を切り取った作品になります。『わが星』の世界をちよっとだけ引き継いだ高校生の物語をつくりたいと思ったのはもう数年前の話になります。

ありがたいことに『わが星』は

わたしの星、の夏

全国の演劇部などで上演される作品になりました。しかし『わが星』には音楽と演出が練りこまれていたために、戯曲をただ上演するのは難しい作品だと僕は思っています。多くの演劇部から「音楽」はどこにあるのかという質問を受けました。あの「音楽」は三浦康嗣さんの音源を借りて、稽古の中で組み立てられたものです。それを貸し出すことは、例えば演出そのものを貸し出すようなことで、非演劇的な行為だと僕は考えています。それよりも描きたいものがあるならば、演出の、作家の、稽古場の知恵で実現してほしい。そうしたほうがきっと良い作品が生まれるはずだと思つています。

同時に僕は考えました。かつて僕も高校の演劇部だった。では高校生の僕が『わが星』という作品を部活で上演するとしたら、どうするだろうか。どうやって問題を解決するだろうか。どうやって自分たちの物語に書き換えるだろう

か。それが『わたしの星』を生み出すきっかけだったと思います。そして、可能であれば、今後も高校生が上演できるような作品にしたい、創作の過程も記録し活用できないだろうか、そんな妄想はこの夏に少しずつ実現しつつあります。

全力で演技する彼らは星のように眩しく、その輝かしさと危うさは時間の流れを浮き彫りにし、そして逆流させます。彼らと白熱した稽古をしているうちに僕は、かつてのあの夏の演劇部員に戻ってしまったような感覚に陥るのでした。これも夏の暑さのせいでしょうか。そんな稽古も、もう終盤。『わたしの星』がもうすぐ開幕します。



Yukio Shiba

82年愛知県出身。青年団演劇部所属。日本大学芸術学部在学中に『ドドミノ』で第2回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。2010年『わが星』にて第54回岸田國士戯曲賞を受賞、同年に劇団「ままごと」を旗揚げ。



「わたしの星」稽古風景、高校生キャスト&スタッフたち

「ハートのビート。」

vol. 08



宮永琢生

[制作]

こんにちは。毎日あーちーすねー。最近の「ままごと」は、東京では柴幸男×高校生が『わたしの星』の稽古師、大石将弘率いる「小豆島スイッチ」部隊はその名の通り小豆島で滞在制作&発表。うん、やっぱり今年の夏はアツくなりそうです。小豆島醬の郷土坂手港プロジェクトオープニングイベント「海辺のなつまつり」(7月20日)では、星野概念実験室のみんな、そしてビルヂングの加藤紗希がライブしに来てくれて、結果的に、名児耶ゆりwith星野概念実験室&ビルヂングとなったライブは大盛り上がり……あれ？ ままごととは(笑)?? その後に行なった盆踊り「いつでもえいよ小豆島音頭」(作詞/柴幸男 作曲/蓮沼執太 振付/ままごと)もアンコールに次ぐアンコールで幕を閉じました。ツアーの合間に遊びに来てくれた東京デスロックのTJ(多田淳次介)&いずみさん(佐山和泉&りっちゃん(間野律子)も本当にありがとっ！ みんなが小豆島に来てくれてうれしかったな。

Baku Furukawa
『far/close』

表現(Hyogen)、Doppelzinnerの、あだち麗三郎クワルテットなど、多数のグループに参加している古川麦(ふるかわ ばく)さんの1stアルバム。昨年、ままごと「港の劇場」@小豆島で名児耶ゆりが行った「しょうゆしょうゆ」では、表現(Hyogen)の権頭真由さんや佐藤公哉さんが一緒に曲をつくってくれたり、「ままごと×小豆島」とは関係が深いミュージシャンたち(と思うてます、勝手に)。麦君の歌は小豆島の海のように穏やかで優しい。先日はDoppelzinnerとして小豆島でライブもしてくれました。これからのような音楽がこの島で鳴ってたらいいな。

島の時間の流れを知ること。島の人たちと同じ時間を過ごすこと。そーゆーの全部が小豆島での大切な創作の時間。今回、「小豆島スイッチ」部隊のみんなも、島で毎日過ごす中でそのことを自然と理解してくれていました。そして、このメンバーだからこそ生まれた「小豆島スイッチ」だったなあって、そんなふうに思います。島の子どもたちも大人の皆さんも、滞在クリエイターの皆さんも、みんな本気で一緒に《ままごと》してくれてありがとっ！

「ただいま」と「おかえり」から始まる演劇がある。僕たちはそう信じてる。だからまたあの島に帰りたいと思います。「ただいま」も「おかえり」も、どっちも言いたいです。

『わが星』のこと

第2回



端田新菜

[俳優]

劇団からの年賀状や劇団のホームページでひっそりとお知らせしましたが、ままごととは来年、『わが星』を再演することになりました。私は劇団内の「わが星番長」を非公式に務めておりますので、それに伴いまして、前回から、「わが星のこと」という連載をさせてもらっています。

ままごと内ではたまにこのような「番長制」がしかれますが、その定義はあいまいです。今回の私の番長業務は「すばらしい作品となるよう祈ること」「観客の皆さんを大事にすること」「作品を観たいと思ってくれる人に作品を届けること」「そのためにした方がいいことをやること」「メンバーをリスベクトすること、愛すること、感謝すること。そしてそれを言葉にする」と「健康に舞台に立つこと」などを予定しています。精一杯努めさせていただきます！ 私がちーちゃんを演じさせてもらえるのも、きつとこれが最後です。

とにかく毎日、『わが星』のことを考え続けています。

今日は8月1日。昨日、小豆島から帰ってきました。7月16日からままごととして滞在制作に行っていて、30日には「きもだめスイッチ」というかなり大掛かりな街歩き肝試しをやりました。ニッポンの河川的光瀬指絵ちゃん、青年団の山本雅幸君、く口ひげの北村美岬ちゃん、それから大石将弘君、おつかれさまでした。ありがとっ。演劇ってすごいね。す

小豆島スイッチ7/27
Photo=Hideaki Hamada

ごかつたね。たくさんの方のアイティストの方や役場の方や街の方が楽しんで手を貸してくださったね。小豆島坂手の静かな港町の夜に、たくさん叫び声と笑い声が響き渡って、街全体が劇場になっていました。終わって見上げれば満天の星。この夏一番の星空でした。眠たそうにしていた息子もポカんと空を見上げていました。

その小豆島での日々の間も、『わが星』のことを考え続けていました。その話もまたいつかさせてもらおうと思います。

「長者町からの手紙」

2通目



加藤仲葉

[制作]

お元気ですか？ いかがお過ごしでしょうか。いま長者町では8月8・9日に開催する「真夏の長者町大縁会」に向けて実行委員会が絶賛準備中です。これは長者町にかかわる団体同士が協働して行う、グルメ屋台あり・出し物ありのいわば「本気の大人の文化祭」。開催4年目の今年は、長者町にある飲食店と協働して「お祭り限定ビール」をつくる企画が出現。そこで、美味しいクラフトビールが飲めるGet Beer Nagoyaの店長・榮川さんのご紹介により、三重県は伊勢にある伊勢角屋さんでオリジナルビールをつくらせてもらいました！

初めて行うビールづくり。粉砕した麦粉をおいしい水で煮込み、麦汁完成！ それをろ過したものに何種類かのホップを投入し再度煮込んだら、酵母が活動しやすい温度まで冷やして発酵槽へ。最後に酵母(イースト菌)を投入して……と書くけど短い作業、9時から18時までかけて行いました。一番麦汁のうっとうする甘さに、琥珀色の美しい輝き。ビールがより愛おしくなるひとときでした。



高校生に負けないほどさわやかな味でした

ここからひと月程発酵させたのち、最後にフレーバーとして「長者町のはちみつ」を足して「長者町大縁会エール2014」が完成。この号が出るころお祭りは終わっていますが、9月13・14・19・20日に行う「長者町BEERジャンボリー」でも飲めるかも！ よければ遊びにきてください！

と、そんな長者町から少し離れた、今私はままごと新作公演「わたしの星」のために一時的に東京で暮らしています。稽古場で常に全力な高校生たちを毎日抱きしめながら(気持的に)(一方的に)、その眩しさを目を細めてばかりいます。いつか彼女たちとビールで乾杯しあえる日が来たらぐつときちやうなあ、なんてお父さんみたいな気持ちになつたりもします。

そんな眩しい夏のできごとを、ぜひひ見届けに来てください。夏には人を本気にさせる何かがあるのかも、なんて思いつつ今回は筆をおきます。では、また！



大石将弘

菅原直樹さん(写真左)
俳優、介護福祉士。「老いと演劇」俳優、介護福祉士。小劇場をOibokkeShi主宰。青年団所属。小劇場を中心に多数の作品に出演。2010年より特に別養護老人ホームの介護職員として働く。介護と演劇の相性の良さを実感し、地域における介護と演劇の新しいあり方を模索している。2012年、岡山県和気町に移住。



お相手

NEXT

柴幸男【作・演出】

劇団うりんこ
『妥協点P』
@こまばアゴラ劇場
2014年8月27日[水]-31日[日]
www.urinko.jp

柴幸男・端田新菜・宮永琢生・加藤仲葉【構成・演出・出演】

アート小豆島・豊島2014
小豆島 島の郷+坂手港プロジェクト 2014
『観光から関係へ-Relational Tourism-』
@小豆島 坂手港 ほか
2014年9月6日[土]-15日[月・祝]
http://relational-tourism.jp

柴幸男【ワークショップ講師】

heater ZOU-NO-HANA vol.8
『スイッチを押すと何が起ころ!?』
『象の鼻スイッチ』ワークショップ
@象の鼻テラス・象の鼻パーク
2014年9月20日[土]・21日[日]・23日[火・祝]
www.zounohana.com

大石将弘【出演】

ナイロン100℃ 42nd SESSION
『社長吸血記』
@本多劇場
2014年9月26日[金]-10月19日[日]
北九州・大阪・新潟公演あり
www.sillywalk.com/nylon/

編集後記

柴さんは東京で、ほかの劇団員は小豆島でと、それぞれの7月を過ごしたままごと。8月は高校生キャスト&スタッフがままごと久々の新作『わたしの星』を上演します。次号、第12号もお楽しみに。(熊井)

企画・編集=ままごと
構成=熊井玲
デザイン=西山昭彦

「自立と移住っていうのを重ねた」

菅原君との出会いは、僕が初めて出演したままごとの公演に出演した時。彼の言葉はその時から力強かった。菅原君は東京を離れて岡山で介護の仕事を始めて、僕はSNSで近況を追いながら、いつかゆっくり話を聞きたいと思っていた。今回、「老いと演劇」OibokkeShiを立ち上げてワークショップをやることを知って、岡山まで会いに行くことにしました。

大石 (岡山県和気町は) 菅ちゃんか奥さんのどちらかの出身地ではないんですか？
菅原 ないです。前から僕の奥さんは田舎暮らしがしたかった。で震災があつて子どもが生まれてすぐだったので、子どもを安心して外で遊ばせられる環境が欲しいっていう話をして。僕は演劇をやったけど就職はしてなくて、ある意味フットワークが軽かったんですよ。で、介護の仕事って面白って思ってたんで、どこかに移住して介護の仕事ができればいいなって。
大石 へえ。

介護と演劇の相性のよさ……？

大石 介護と演劇の相性がいいと思っただけでどうして？
菅原 まず、お年寄りが個性的な存在だったっていう。僕は演劇のどこが好きかって言ったら個人的な人間を見るのが好きだったんで。お年寄りには個性が煮詰まる存在なんです。大石 煮詰まるっていいですね。
菅原 それから、認知症とかかわりで演技が必要になるんじゃないかって。僕が今働いている特別養護老人ホームで、あるおばあさんは僕のことを時計屋さんだと思ってる。

大石 へえ。
菅原 僕が「時計の困りごとない？」って聞くと、「もついっぱいありますよ！」って。時計屋さんの演技をすることに罪悪感がありますよ。だから、こういうふうになんか通わせる

演技があつてもいいんじゃないかなって思ってたんですよ。実際盛り上がった心が通ったような感じがある。「時計屋さんでしょ」って言われる度に「菅原です」って訂正するのと受け入れるのでは全然違うんじゃないかって。僕は、命や感情に寄り添うために演技をしている。だからもっと、良心的な介護職員や介護者に演技のコツっていうのを知ってもらいたい。

介護の楽しさと俳優の喜び

大石 それは俳優だからこそできるワークショップですね。
菅原 こっちに来ると「演劇人」っていう認識になりますね。俳優っていうよりも演劇全体のことをよく知ってる人。でも名刺には「俳優」って書いてます。介護福祉士として働いているのは俳優っていう意識が近いんです。

大石 俳優として働いてる？
菅原 いや、なんですかね。お年寄りとかかわりを持つ時に、俳優の技術っていうのが生かされてる実感があるんですよ。
大石 ああ、なるほど。
菅原 介護って管理職にもなっていくんですけど。一番下が介護職で、トイレ介助したりとか。僕それが好きなんです。お年寄りのとかかわりが。それは俳優の喜びと近いなって思ってたんですよ。俳優っていうことにはこだわりがありますね、ここに来ても。

Column

新井悠里

“自分にしか出来ない”と胸を張って言える、そんな自分にしかない誇りを一つでもいいので探そう。それが私たち高校生スタッフの大きな目標です。これを初めて柴さんから聞いた時、まずいな、と思いました。私の中のコンプレックスでダントツ1位なのが、“自信が持てない”ということだったからです。これは自覚もあるし、親にも友人にも先生にも初対面の人にも言われたことがあります。分かっていたって持てないものは持てない。そう腐ってしまう私に、変わろうと思える転機をくれたのが、この『わたしの星』でした。同じように舞台が好きで、この作品と一緒につくり出そうとする仲間が出来、高校生スタッフという自分自身ですべきことを見出し誇る仕事を一緒に背負う人が隣にいる。ここで何がみつかるか分からない、見つからないかもしれない、でも私なりの『わたしの星』が見つかるんじゃないかという思いで、日々稽古に臨んでいます。皆さんも皆さんだけの星、観てみませんか？

高校生スタッフから見た「わたしの星」

小出実樹

私にとって、東京は異世界で、東京に住んでいる人は、同じ日本でも違う人種ってくらいに思っていて、だから今でも東京での日々は非日常で、疲れる。けど、田舎特有の東京美化が消え去るくらいには、東京というものが現実を感じられてきたと思う。もとはキャスト志望だったので、初めのうちは見ていることがつらいと思うこともあったけど、今はキャストがいい空気で稽古で来るとうれし、キャスト一人ひとりのパワーとか発想(?)を見てすごいなあと思う。これから稽古を重ねて、作品が出来上がっていくのが楽しみだし、自分の目標としては、仕事を見つけたら以前に与えられた仕事のクオリティを上げること、3年受験生なので、今回を通してこれからの自分の演劇に対するかわり方を決めたいと思う。一生で一度きりかもしれないから、東京は好きになれないけど、あと一カ月くらいがんばろう、と思う。

対談の続きはHPで読めます！

ゼロ年代演劇、
最後のマスターピースにして
クラシック、再び。

www.wagahoshi.com

ままごと

わが星

mamagoto

OUR PLANET

2015年5月—6月

三鷹市芸術文化センター 星のホール 他
May-June 2015
MITAKA CITY ARTS CENTER
THEATER "HOSHI" and more

作・演出

柴 幸男

Written & Directed by

YUKIO SHIBA

音楽

三浦康嗣

(□□□)

Music by

KOSHI MIURA

CAST

大柿友哉 (害獣芝居)
黒岩三佳 (キリンバズウカ)
斎藤淳子 (中野成樹+フランケンズ)
寺田剛史 (飛ぶ劇場)
永井秀樹 (青年団)
中島佳子
端田新菜 (ままごと|青年団)
山内健司 (青年団)